

## BL32B2 創薬産業ビームライン (蛋白質構造解析コンソーシアム)

### 1. はじめに

創薬産業ビームラインBL32B2（創薬産業BL）は、日本製薬工業協会加盟22社からなる蛋白質構造解析コンソーシアム（蛋白コンソ）によって設立され、2002年9月から蛋白コンソ加盟企業による本格的な利用が開始された。

### 2. 報告事項（2007年4月～2008年3月）

2007年4月から1社が新たに加盟し、加盟会社数は20社となった。高い評価を受けた中間評価以後、設置契約期間の残り5年に入り、蛋白コンソは組織ならびに運用体制について検討を行った。2007年4月からは創薬産業BLの維持管理と事務局運営は外部に委託し、会員企業の負担軽減と活動および運営の合理化を実現した。(独)理化学研究所で開発されたタンパク結晶交換用ロボットを運用した(2006B期～)。創薬産業BLにおいて、加盟会社に限定した代理測定を2008年4月から実施することにした。

### 2-2 2007年10月～2008年3月

- 11月 第15回総会（定期）および講演会/創薬産業BLにおける代理測定  
SPring-8シンポジウム  
KEK・PF見学会
- 12月 創薬産業BLの高輝度化検討
- 1月 SPring-8供用開始10周年記念 産業利用講演会
- 3月 実験責任者講習会（2008年度）  
製薬粉末未知構造解析ワークショップ I（理研・播磨研）

### 3. 創薬産業BLの利用状況

2002年B期から2007年B期までの課題別利用状況を表1にまとめた。蛋白コンソ加盟20社が実際に利用したシフトに占める成果専有課題の比率が年々増加している。また、5年半の利用実績のまとめを表2に示した。

### 2-1 2007年4月～9月

- 4月 業務委託開始（BL維持管理/JASRI、事務局業務/SAI株式会社）  
実験責任者講習会開催  
SPring-8利用推進協議会（研究開発委員会）/東京  
SPring-8一般公開参加
- 6月 第14回総会（定期）および講演会/蛋白コンソ第II期スタート  
SPring-8利用推進協議会総会/神戸
- 7月 横浜市立大学連携会議

蛋白質構造解析コンソーシアム  
鈴木 健司

表2 2002B～2007B期の利用実績

利用区分	シフト数（比率%）
	2002B～2007B
成果専有課題	1116 (39)
成果非専有課題	201 (7)
BL調整枠	344 (12)
緊急課題枠	170 (6)
空き	1011 (36)
合計	2842

表1 2002B～2007B期の課題別利用状況

課題区分	シフト数（比率%）					
	2002B	2003A	2003B	2004A	2004B	2005A
成果専有課題	102 (67)	122 (75)	118 (80)	112 (79)	100 (81)	109 (90)
成果非専有課題	51 (23)	41 (25)	29 (20)	30 (21)	23 (19)	12 (10)
合計	153	163	147	142	123	121
	2005B	2006A	2006B	2007A	2007B	
成果専有課題	84 (90)	131 (98)	80 (100)	101 (99)	57 (97)	
成果非専有課題	9 (10)	3 (2)	0 (0)	1 (1)	2 (3)	
合計	93	134	80	102	59	